



ふるい ようこ
古井 陽子 さん(下川島)

マチコミメールやSNSを活用し、運用も活動もしやすい仕組みが興味深かったです。

地域の人がより学校と関われるよう、昨年度から「下館西中学校支援ボランティア」登録制度を導入し、受け入れ態勢を整えてきた同校。主な活動内容として、授業の手伝いや登下校・心の相談室での見守り活動を行います。現在登録しているのは、20代から80代といった幅広い年齢層の20人。LINEなどで活動要請を

地域の人はみな人生の先生

「地域とともにある学校」このキーワードを耳にしたことがありますか。現在、学校を核とした地域づくりが全国で進んでいます。市内でも下館西中学校（以下西中）が積極的に地域との連携を図っており、その取組みについて今回取材しました。

地域の人財輝く 学校支援ボランティア

支援ボランティアの活動例



家庭科の実習でのサポート。気軽に質問しやすいと生徒からも好評。

かけ、できるときにできる人が参加する仕組みとなっています。久下典子校長は「ボランティアさんの存在には大変助けられています。多くの学校で制度が広がってほしいですし、子どもたちにとって、地域の人はみな人生の先生です。お互いにより影響を与え合いながら、地域で子どもたちを育てていけたら」と熱い思いを語ってくれました。

広がる想い・繋がる絆

ボランティアとして活動する2人に、始めたきっかけややりがいについて聞きました。除草作業でサポートする石島雄二さんは「自分も学生の頃は学校の先生にお世話になったので、恩返し of 気持ちで活動しています。退職後のやりがいになっていきますし、草刈りをする私を見て、ちらほら草を刈ってくれる人も出てきてくれました。自分の行動が呼び水になっていたら嬉しいです」と、そこから広がる輪への期待を話してくれました。



運動会前にグラウンドの除草をする石島さん（右）
運動会でテントの撤去作業を手伝う諸江さん（左）

19歳で登録し、現在20歳で高専生の諸江拓音さんは、西中卒業生の元生徒会長。「卒業後も母校と関わり、頼りにされることを嬉しく思います。心の相談室の見守り活動もして

取材を終えて

「地域のみなさんと学校の強い信頼関係」と、そして、子どもや大人、地域が輝き、今後広がっていくであろう「学校支援の輪」に、地域人財の無限の可能性を感じました。ボランティア活動を通して、生きがいや新しい目標をもつ人もいるそうです。みなさんもボランティアに登録し、新たなやりがいを見つけてみませんか。

【問】下館西中学校 学校支援ボランティア
☎ 28・0404



久下校長先生（前列中央）と
ボランティアのみなさん

いますが、生徒と年齢が近いからこそ、悩みなどを相談しやすい存在になりたいです。やりがいも感じますし、みなさんも兄弟と接する気持ちで始めてほしいです」と同世代へメッセージを送ってくれました。